

NO.	中長期目標 (重点目標)	短期目標 (重点課題)	指標 (具体的な方策)	評価	保護者 アンケート	評価	生徒 アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点
1	基礎学力を確実に身に付けさせる。	基礎・基本の定着及び学習意欲を喚起する学習指導の取組を充実する。	学習用具の準備や授業態度を中心に学習規律を確立させることで、生徒が集中して学習に取り組める環境づくりに努める。	3.3	子どもは、学校で落ち着いて学習に取り組んでいるようだ。	3.4	授業中、話をしっかりと聞き、まじめに学習に取り組んでいる。	3.5	○どの学年も明日の連絡及び授業における学習のルールを徹底することで、学習用具の準備や授業態度を中心とした学習規律の確立を図った。	○学習用具忘れや授業態度の面で取組の効果は見られたが、一部の教科の授業で課題が残った。学習のルールの共通理解を図り、授業態度を中心に学習規律を確立する必要がある。
			毎週の月・水・金に国・数・英を中心に課題を出し、家庭学習の定着を図る。「ワンプリデー」	3.3	子どもは、ワンプリや宿題をきちんと行い、家庭学習の習慣が身についている。	3.2	ワンプリや宿題をきちんとするなど、家庭学習の習慣が身についている。	3.5	○どの学年も毎週月・水・金の3日間、国語・数学・英語の3教科を「ワンプリデー」として実施した。	○どの学年も「ワンプリデー」を継続して実施するとともに、この取組をもっと家庭学習への習慣につなげていく。また、理科・社会科等他教科への実施及びプリント内容の充実に努める。
			朝自習・総合的な学習の時間を活用して、漢字力の向上に取り組む。「漢漢チャレンジ」	3.4	学校は、子どもの学力を高めるための工夫や努力をしている。	2.8	授業や学習に関する取組は工夫されていて分かりやすい。	2.9	○1, 2年生は毎学期、3年生は1, 2学期に「漢漢チャレンジ」を実施した。また、全学年とも年間3週間「漢漢朝自習週間」を設けて、実施した。	○どの学年も充実したものとなり、取組として定着してきた。学習意欲を喚起及び基礎学力を保障するため、「漢漢朝自習」「漢漢チャレンジ」を継続して実施する。
			授業の初めにガイダンスを行い、毎時間「めあて」を提示することで、生徒が授業に興味・関心を持って積極的に取り組めるよう工夫・改善を行う。	3.2					○毎時間、「めあて」と「まとめ」を提示した授業を行った。また、視聴覚教材を取り入れ、授業に興味・関心を持って取り組めるよう工夫・改善を行った。	○「めあて」の書かれた授業は定着してきたが、「まとめ」を提示した授業がまだまだ少ないので、授業の基本を徹底していきたい。また、視聴覚教材を取り入れ、授業に興味・関心を持って取り組める授業の工夫・改善も、一部の教科に限られた。
		全学年、定期考査前や夏季休業中に質問教室を実施する。	2.9					○全学年とも、5教科を中心に定期考査前及び夏季休業中の質問教室を実施できた。	○考査前の取組が学年及び教科に偏りがあった。家庭学習への習慣につながるよう全学年が年間を通して、共通した計画的な取組を行う。	
2	心の教育の充実を図る。	人権教育の充実を図る。	生徒の興味・関心や実態を考慮した講師を招聘しての講演会を実施する。	2.5	子どもは、相手の気持ちを考えた言葉遣いや行動ができてきている。	3.0	相手の気持ちを考えた言葉遣いや態度ができてきている。	3.2	○全学年一斉に携帯・ネットでのマナーにおける講師を招聘し、6月に講演会を実施した。	○生徒の内面に訴えかける講話を実施できた。次年度も生徒の興味・関心や実態を考慮した上で、講師や話の内容を精選し、講演会を実施していく。
			道徳教育及び人権教育の充実を図るとともに、思いやりの「心」が育つ取組を行う。	2.9						
		学校環境の整備を図る。	全職員による清掃指導の徹底、及び年1回、美化コンクールを実施する。	2.8	学校は、施設や設備などの教育環境の整備に努めている。	2.8	学校の施設を大切にし、清掃活動にも、しっかり取り組んでいる。	2.9	○毎時間、全職員で清掃の指導はできたが、2学期予定していた美化コンクールは3学期に実施した。	○美化コンクールについては3学期後半の実施であったため、1, 2年のみの取組となった。次年度は2学期に位置づけて実施する。
		豊かな人間性を育む食育に取り組む。	片付けや配膳室への返却マナーを中心に豊かな人間性を育む食育に取り組む。健康保持・増進と食習慣の定着を視点を、昼食指導や食に関する内容の放送、栄養掲示板の記入を行う。	3.0					○配膳・片付けや食事時のマナーについて給食指導員・配膳員の支援のもと、全職員で確認し、指導した。	○特に片付けや配膳室への返却マナーについては、向上した。今後も継続して指導していく。
	学校行事の見直し及び生徒と触れあう時間の確保を行う。	教育相談は1・2学期の2回、クラスマッチは各学年・年間1回実施する。また、長期的視野に立った部活動の活性化を行う。	3.4					○教育相談は1, 2学期の2回、クラスマッチは1, 3年は12月、2年は3月に1回、実施できた。	○クラスマッチ、教育相談ともに充実した取組となった。今後も教育的効果を考え、取組を行う必要	

		総合的な学習の時間における体験活動を充実する。	1年生のふれあい合宿、2年生の農泊体験学習、3年生の修学旅行等の体験的な学習を充実する。	3.6					○1年生のふれあい合宿、3年生の修学旅行は5月に、2年生の農泊体験学習は10月に実施した。	○2年生の農泊体験学習は、2学期の取組自体は効果があったものの、2学期は学校・学年行事が多く、時数の確保に追われた。行事にかかる時間数を計算し、場合によっては1学期から取り組む必要がある。
3	生徒指導の徹底及び特別支援教育の充実を図る。	生徒の心をつかんだ生徒指導の推進と危機管理意識の徹底を図る。	いじめアンケート等から、生徒の実態を把握するとともに、 <b>職員研修会を実施し、今後の有効な対策を検討し、実施する。</b>	3.3	子どもは、毎日楽しく安心して学校に通っている。	3.0	毎日楽しく安心して学校に通っている。	3.2	○毎学期1回、いじめアンケートを各学級で実施した。職員研修会については、1学期に実施した。	○いじめアンケート等により、学級経営のための有効な資料が得られ、日常生活指導に活用できた。職員研修会については、生徒理解を深める研修を1学期当初行ったが、その後の検証のための研修会を設定できなかった。
			問題行動に対し、職員集団が一丸となり、組織的に対応できる体制を確立・推進する。	3.2					○学校全体及び各学年で発生した問題行動に対し、学校・学年の職員が一丸となり、組織的かつ計画的に対応できた。	○問題行動に対し、全職員で組織的かつ計画的に対応したことが、早期解決につながった。今後、積極的な生徒指導を充実させるとともに家庭・地域との連携を図りながら、集団及び生徒個々の規律の向上を目指す必要がある。
		あいさつや言葉遣いを中心に基本的な生活習慣の定着を図る。	生徒指導部や生徒会生活委員会を通して、服装指導の徹底を図る。また、PTAの挨拶運動や職員の声かけを通して、あいさつや適切な言葉遣いができるようにする。	3.0	子どもは、礼儀正しくあいさつでき、身だしなみも整っている。	3.1	礼儀正しくあいさつができ身だしなみも整っている。	3.4	○学年集会や月1回のあいさつ運動、日ごろの声かけの中で、服装や頭髪の指導、あいさつの指導を行った。	○日常生活において、気持ちのよいあいさつができる生徒が増え、基本的な生活習慣の形成にも効果が上がってきている。また、服装や頭髪の指導だけでなく、進路指導との関わりの中で言葉遣いも含めた3年間を見通した継続的な指導も必要である。
		特別支援教育を充実する。	生徒一人一人の実態に応じた日常生活指導及び学習指導を行う。	3.3					○特別支援学級担任を中心に全職員が個人の特性に応じた日常生活指導や声かけ及び各教科等における学習指導を行った。	○さまざまな場面で特別支援学級の生徒とふれあうなかで、また、生徒指導に関する職員研修会での情報から、早期の生徒理解に努め、実態に応じた日常生活指導及び学習指導を行う。
4	保護者及び地域との一層の連携強化を図る。	保護者及び地域に開かれた学校を推進する。	学年や学級通信、ほけんだよりの月1回発行、HP月1回の更新等充実を図るとともに <b>保護者にきちんと渡すよう指導する。</b>	3.1	学校からのプリントや通信などから、学校の様子が分かる。	2.9	学校からのプリントや通信などを家族にきちんと渡している。	3.2	○ほけんだより、HPの更新等については、月1回以上の発行・更新を行った。	○今後も地域や家庭と連携を深めるためにも、充実した通信・HPを発信し、情報を伝えていく。特に学校行事の様子を伝えるHPのコーナーの充実を図る。
			学校開放週間や土曜日授業の内容を充実することで地域への開放を推進する。また、小若山笠への職員及び生徒の積極的参加を図る。	3.1					○今年度も11月の学校開放週間には、文化祭当日を中心に600名近くの参加があった。小若山笠については、参加率が約30%弱という現状であった。	○日ごろの学校の取組・実態を理解してもらうためにも、授業参観、土曜日授業や各学年の行事等を活用し、より充実した開放を推進する。また、小若山笠についても、できるだけ参加を呼びかける。